

2020年9月11日

ケミカルリサイクル技術及び Waste Management Criteria では世界初となる CBI 認証を取得！
日本環境設計グループのペトリファインテクノロジーが三井住友銀行のグリーンローンを調達
2021年夏にケミカルリサイクルによるリサイクル PET 樹脂の製造を開始します



日本環境設計（以下、当社 代表取締役社長：高尾 正樹、所在地：東京都千代田区）の子会社であるペトリファインテクノロジー株式会社（以下、PRT 代表取締役社長：伊賀 大悟、所在地：神奈川県川崎市）は、2021年夏に予定しているペットボトルのケミカルリサイクルプラントの運転再開に係る設備投資プロジェクトの資金をグリーンローンにて調達しましたので、お知らせいたします。また、これを受けて、2021年夏にケミカルリサイクルによるリサイクルPET樹脂の製造を開始します。

このグリーンローンの調達は、低炭素経済に向けた大規模投資を促進するイギリスの NPO である Climate Bonds Initiative（以下、CBI）が定めた評価基準「[Climate Bond Standard](#)」に則り、CBI の認定検証機関である日本格付研究所（以下、JCR）がイー・アンド・イー ソリューションズ株式会社の環境専門家をチームに参画させて厳正な審査を行い、その適格性が認められ実現したものです。中でも、当社独自のケミカルリサイクル技術である [BRING Technology™](#) については、ペットボトルの原料における再生材の割合を高め、資源の有効利用を図る上で重要なものであると評価されました。

また、CBI において Waste Management Criteria に関する世界初の認証となるほか、ケミカルリサイクルを用いた事業が認証対象となるのも基準制定以降今回が初めてです。日本企業として CBI 認証を得るのは PRT が 5 社目、基幹インフラ事業以外としては国内初と言えます。

なお、グリーンファイナンスフレームワークの策定にあたっては、株式会社三井住友銀行より支援を受けております。

持続可能なパッケージソリューションへの需要が全世界で高まる中、「1分に100万本売れる」¹と言われるペットボトル飲料において、そのパッケージとなるボトルの循環利用は重要な社会課題の一つです。日本国内においては世界に誇る非常に高い回収率を達成しているものの、使用済みペットボトルを原料にしてペットボトルを再生する、いわゆる「ボトル to ボトル」で製造されるペットボトルの割合は、国内総販売量に対して 12%（2018 年度）² と低い水準にとどまっています。「ボトル to ボトル」の割合を高め、ペットボトルがペットボトルとして何度も何度も使えるようになる「完全循環」を目指すうえで、日

本件に関する取材のお問い合わせ先

日本環境設計株式会社 広報担当：沖田 愛子
電話：03-6273-3218 E-mail：info@jeplan.co.jp

本環境設計グループは、リサイクルを重ねることで課題となる可能性のある不純物の蓄積に対応できる独自のケミカルリサイクル技術「BRING Technology™」を最大限活用し、既存のメカニカルリサイクル技術との最適なバランスを実現することで、石油の使用量削減、温室効果ガスの排出抑制に貢献していきたいと考えています。同時にペットボトルの完全循環へのご賛同を広く募り、飲料メーカーや包装材メーカー、リサイクル事業者をはじめペットボトルに関わるあらゆる事業者・自治体の皆さまと連携を図り、生活者のリサイクル参加を促しながら完全循環に向けた取組を加速していきます。

当社創立 15 年目を迎える 2021 年、PRT の工場運転と再生 PET 樹脂の製造を再開させることは、「あらゆるものを循環させる」という当社ビジョンの実現に 1 歩近づくといい点においても一つの節目になると考えております。今後も BRING Technology™をコア技術に、国内外のパートナーと手を取り合い、サーキュラーエコノミーの実現を目指して参ります。

1) 出典：



“A million bottles a minute: world’s plastic binge ‘as dangerous as climate change”, The Guardian, PUBLISHED JUNE 28, 2017
[\[https://www.theguardian.com/environment/2017/jun/28/a-million-a-minute-worlds-plastic-bottle-binge-as-dangerous-as-climate-change\]](https://www.theguardian.com/environment/2017/jun/28/a-million-a-minute-worlds-plastic-bottle-binge-as-dangerous-as-climate-change)

2) 出典：PET ボトルリサイクル推進協議会

■本フレームワークの概要



資金使途	使用済み PET ボトルのケミカルリサイクル事業に係る、2021 年夏に予定している工場の再稼働及び設備改修に伴う投資
インパクト指標 (定性面)	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーエコノミーへの貢献 ・海洋プラスチック問題への対応強化 ・低炭素社会実現への貢献

■資金使途と SDGs との関連性について

ゴール	SDGs と最も関連性の高いターゲットの概要	グリーンプロジェクトに係る資金使途	左記 SDGs ターゲットと関連する理由
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う	川崎市における、使用済み PET ボトルのケミカルリサイクル事業に係る、工場再稼働及び設備改修に伴う投資	ケミカルリサイクル技術活用による、資源のリサイクル可能割合の向上、及びサーキュラーエコノミー実現に向けた貢献
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	12.2 2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する 12.5 2030 年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する	川崎市における、使用済み PET ボトルのケミカルリサイクル事業に係る、工場再稼働及び設備改修に伴う投資	<ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルリサイクル技術活用による資源のリサイクル可能割合の向上、及びサーキュラーエコノミー実現に向けた貢献 ・ケミカルリサイクル技術の普及によりプラスチックゴミの回収率が向上し、廃棄物の削減に貢献

本件に関する取材のお問い合わせ先

日本環境設計株式会社 広報担当：沖田 愛子
 電話：03-6273-3218 E-mail：info@jeplan.co.jp

 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	<p>13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する</p>	<p>川崎市における、使用済 PET ボトルのケミカルリサイクル事業に係る、工場再稼働及び設備改修に伴う投資</p>	<p>ケミカルリサイクル技術活用による、資源のリサイクル可能割合の向上、及びサーキュラーエコノミー実現に向けた貢献</p>
 <p>14 海の豊かさを 守ろう</p>	<p>14. 12025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する</p>	<p>川崎市における、使用済 PET ボトルのケミカルリサイクル事業に係る、工場再稼働及び設備改修に伴う投資</p>	<p>ケミカルリサイクル技術の普及により、プラスチックゴミの回収率が向上し、海洋プラスチックゴミの削減に貢献</p>

Climate Bonds Initiative

事業内容：低炭素経済に向けた大規模投資を促進する国際 NPO、投資家や政府が低炭素投資を行う際のスクリーニングツールとして Climate Bond Standard（CBS）を策定している

住所：40 Bermondsey Street London SE1 3UD United Kingdom

URL：<https://www.climatebonds.net/>

株式会社日本格付研究所

事業内容：国内外で発行・流通する債券・ストラクチャード・ファイナンス等の格付・情報提供

住所：東京都中央区銀座 5 丁目 15 番 8 号 時事通信ビル 10 階

URL：<https://www.jcr.co.jp/>

株式会社三井住友銀行

事業内容：口座開設、住宅ローン、外貨預金、投資信託等の各種商品のほかグリーンローンをはじめとした各種資金調達

住所：東京都千代田区丸の内一丁目 1 番 2 号

URL：<https://www.smbc.co.jp/>

ペトリファインテクノロジー株式会社

代表取締役社長：伊賀 大悟

事業内容：独自のケミカルリサイクル技術「BRING Technology™」を用いた使用済みペットボトルのリサイクル及びリサイクル樹脂の製造

住所：神奈川県川崎市川崎区扇町 12-2

URL：<https://www.prt.jp/>

日本環境設計株式会社

代表取締役社長：高尾 正樹

事業内容：BRING 製品の製造・販売・服の回収・リサイクル、企業と連携したあらゆるものを循環させるプロジェクトの企画・運営、PET ケミカルリサイクル技術関連事業

住所：東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビルディング 25 階

URL：<https://www.jeplan.co.jp>

本件に関する取材のお問い合わせ先

日本環境設計株式会社 広報担当：沖田 愛子

電話：03-6273-3218 E-mail：info@jeplan.co.jp